



# 学校だより 9月号

石川小学校 学校教育目標  
育てます。「石川魂」

令和3年9月1日  
横浜市立石川小学校  
校長 寺園 淳

## インターネットの中で生きる子どもたち

児童支援専任教諭 村田 真紀

残暑が続いておりましたが、いかがお過ごしでしたでしょうか。今年度から児童支援専任を務めております、村田と申します。よろしくお願いたします。ここにこマーク☺️を名札に付けています。「まもりん」と言ったほうが低学年のお子さんにはわかるかもしれません。（みんなを守りたいという思いから、「まもりん」という愛称を付けました。）

昨年度は、2週間の夏休みでしたが、今年度は久しぶりに長い夏休みでした。とは言っても、緊急事態宣言の中での夏休みは、大人も子どもたちもいつもと違った過ごし方をしたのではないかと思います。私も、帰省しない夏休みでしたので、熊本の実家の両親にスマホで写真を送り合ったり、テレビ電話をしたりして、近況を報告し合いました。本当に便利な世の中になったなあと、ありがたく感じました。と同時に、私はポケベル→PHS（ピッチと呼んでいました）→携帯電話（ガラケー）→携帯電話（スマホ）を使ってきた世代なのですが、石川小の子どもたちは、生まれた時からスマホがあって、タブレットがあって、ずっとインターネットに触れてきた世代であることを、近年特に感じます。だからこそ、正しい使い方を教えることが大切だと感じます。

今年度、6・7月に、4年生以上の学年に「子どもの社会的スキル 横浜プログラム（Y-P）」の中から「絆を感じよう～糸で感じるインターネットの世界～」という授業を行いました。ボールに巻かれた毛糸の玉をインターネットに見立てて、全員で静かに転がし、全員でつながった後、一人ひとり糸を弾いてみました。子どもたちの感想には、「インターネットはくもの巣のような形をしていて、これがあるおかげで世界中の人とつながることができるのだと思いました。」とインターネットで世界とつながる楽しさを感じ取った子や、「自分がさりげなく送ったことが相手をすごく傷つけていたことがあったと思う。それを、今回指で感じました。今回は指だったけれど、本来は、心の傷になることもあると思います。自分でも気を付けたいです。」「責任をもって、発信する前に言葉をちゃんと選ぼうと思いました。」といった、発信したものがインターネットに残ってしまうことや、傷つけてしまうことがあるということを感じ取った子もいました。また、7月に行われた「平楽中ブロック横浜こども会議」では、6年生の永山航大さん、遠田奏斗さんが石川小代表として出席し、平楽中と中村小の代表児童生徒と一緒に「誰にとっても居心地のよい学校づくり～ネットの世界でも気持ちよく過ごすために～」をテーマに話し合いました。8月の「南区横浜こども会議」は緊急事態宣言のため中止になってしまいましたが、各校で話し合ったことを出し合って、また発信していけたらと思います。ご家庭でも気になることがございましたら、いつでもご連絡ください。



平楽中ブロック横浜こども会議の様子